地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名： 出雲市里家センター
施設種類： 地域密着型通所介護
日時： 令和7年1月24日
会場： 出雲市里家センター 相談室

出席者：	利用者家族	1人	出雲市あんしん支援センター職員	1人
	第三者委員	1人	事業所職員	2人

(議題)

1. 挨拶
2. 自己紹介
3. 活動報告
4. 意見交換
5. その他

3. 活動報告（事業利用状況、及び前年度との比較による運営状況）

- 1) 月別利用延べ人数（R6年度実績とR6年12月までの実績と傾向）
- 2) 曜日別登録者数（R6年5月とR6年12月の比較）
- 3) 利用者の介護度（R6年5月とR6年12月の比較）
- 4) 紹介居宅事業所数（R6年5月とR6年12月の比較）
- 5) 利用者の平均年齢（R6年5月とR6年12月の比較）
- 6) 自主事業（R6年6月からR6年12月までの実績）
- 7) 一日の流れ
- 8) 年間行事実施状況
- 9) 防災訓練実施状況
- 10) ボランティア受け入れ状況
- 11) 苦情・ヒヤリハット・事故報告
- 12) 職員会議、職員研修計画
- 13) 環境整備の取り組み計画

4. 意見交換（評価、要望、意見、助言等）

(家族)

デイサービスっていうものを漠然としか知らなかったし、気にしていなかったが、母親が初めて出掛けるようになって、今活動の内容を聞いたら大変な仕事だなとつくづく思った。

(職員)

通われるようになって変わったことはあるか？

(家族)

楽しそうにしている。日曜日の夜に「明日はデイだからおらんけんね。」と話してくれる。自分が仕事に出ている時は母親のことが気になるが、デイに出掛けていると安心できる。

(あんしん)

前回は参加したが、いつもヒヤリハットで細かく気付きを上げておられ感激している。

一つ目に、食事についてのヒヤリハットが何点かあったが、皮を食べたり別の人に違う物がでたりと上がっていたが、栄養士さんもない中でどのようにして情報共有をしているのか、その中でも工夫をしていることがあれば教えて欲しい。

二つ目に、県内でもインフルやコロナが流行っているが、現在の感染対策の実施状況を教えてほしい。

三つ目に、高齢者宅をまわらせて頂くと認知症の男性の方が行き場がなくて困っているという声を聞くが、本当は働きに行きたいが働きに行くところがない。デイサービスとなるとハードルが高い。今資料の中で7人の男性登録がしてあるが、個別の活動もされていると伺ったがその方々がどんな風に過ごしているのか教えてほしい。

(職員)

一つ目の食事について、ヒヤリハット報告が出た時にまず職員間で情報を共有してすぐに検討をする。一度だけ一人の人が果物の皮を誰かが食べられたからと言って、全員分の皮を取って提供するのとは違うと感じるため、“その方だけ皮を取ろう”と決めたり、お弁当入っている紙パック等は“その方だけ紙パックをやめて小鉢に移そう”等と決める。その後、配膳の際の名札に注意書きを書いて、出す前に誰もが目で見て確認できるような対応をしている。一人一人の名札に注意すべき事を書き、確認しながら防いでいる。配膳する際はお名前とご本人さんを確認しながらお出ししている。

二つ目の感染対策について、5類になってから利用の条件をコロナ禍に比べ少し緩和をしている。以前はご家族がコロナになられた場合、濃厚接触者として5日間休んでいただいていたが、それではなかなか機能維持もできない。定期的に出掛けることでご高齢者は機能維持ができるため、症状がなければマスク着用のもとで健康観察をしながら利用できるように変更した。もし発熱が施設内であった場合は、施設で所持している検査キットを使って対応している。消毒についてはコロナ禍の時は頻回にしていたが、そこも少しだけ緩和し夕方の掃除の際にしている。ただし換気は少しずつ窓を開けて常に換気をするようにしている。パーティションについては今は外しているが、家族内で感染があった場合は連絡して頂き、その際は他の方と距離をとったりパーティションをする対応をしている。お茶や食事の前には必ずテーブルはアルコール消毒をし、皆さんには石鹸で手洗いをして頂いている。業務的にはコロナ禍よりだいぶん減らしてきているが、肝心なところは残している。

三つ目の男性利用者の過ごし方について、ご本人に聞きながらやりたいことを選択して過ごしていただいている。新聞を読んだり、共同作品のお手伝いを手伝ってもらっている。紙を丸めたりちぎったり、できることを職員と一緒にしていただいている。家で寝てばかりで下肢筋力が低下気味の方もおられるので、一緒に廊下を歩いたりもしている。また、玄関の外に出て外眺めたりされる方もおられるので、その際も職員が付き添い一緒に外の空気を吸って気分転換をしたのちに事業所内へ戻っている。また、仕事を連想するためか、ハサミを使ったり、定規で線を引いたりということを好まれる男性利用者は多い気がする。特に切ることは集中してされている印象を持つ。認知症があり出かけにくい方には、「デイサービスに行きませんか」と誘うのではなく「お手伝いに来て頂けませんか」という形で声かけさせていただく事もある。そうすると「自分でいいかね」と出てみようかなと思って下さる方もおられる。女性より男性の方が出かけにくいということが多い。

(第三者委員)

ヒヤリハットが多いなと感じたが大きい事故には至っていないので、細めに対応しているのだなと思った。感染症発生時における業務継続計画（BCP）及び訓練と書いてあるが誰か指導者の方が来れるのか。

(職員)

指導者は来ていない。制度が変わり業務継続計画を立てておかないといけないと決められており、その計画に沿って感染者が出た時の動き再確認をしている。その方法も都度変わるので、変更があった所も確認している。

(第三者委員)

ヒヤリハットの所で徘徊が1となっているが大丈夫だったのか

(職員)

徘徊の危険性があるということで、実際におられなくなったのではない。これが事故につながるような事例になると徘徊につながるのではという気づきであり実際に徘徊はしておられない。

(第三者委員)

ここで発熱した時には検査キットを使用されるか

(職員)

コロナ禍になってから何回も使用している。その時は看護師が対応している。

(家族)

ヒヤリハットが一番難しいと思う。予測できる事はたくさんあるが、逆に予測できない事もたくさんあるので、その都度頑張ってもらわなければならないと思う。例えば家でも思うが「どけておいたら良かった」と思う物に当たって転んだり等いろいろある。大変だと思うが頑張ってもらいたい。予測もたくさんできると思うが、なかなかそれ以外の方が多いと思う。

(職員)

予測できることは事は整理整頓等して事前に対応しているため、ほとんどが予測ができない事のヒヤリハットが多い。

(家族)

この仕事だけでなくどの仕事でもヒヤリハットはついてくるので大変だと思う。

(あんしん職員)

体験利用時は送迎付きか

(職員)

送迎は要相談になっている。基本的には家族送迎だが、どうしてもという時は送迎も対応している。

(あんしん職員)

まめな教室という南部地区の体操教室があるが、それを卒業された次の行き先が乙立か朝山か稗原だが、行けるデイサービスが限られている。「名前は知っているがどんな所かわからない」「まだあの人は行っているか」と聞かれるが、個人情報のため自分達も言えないため「一回見学に行かれてみてはどうですか」と声をかけるが、送迎があると家族も仕事があったりして助かる事が多いので考えてみて欲しい。

(職員)

相談して頂ければ検討したいと思う。

5. その他

施設内見学、年間の活動写真を見ていただく。